

第1回 | Benesse® 教育研究開発センター
Benesse Educational Research and Development Center

中学校英語に関する 基本調査 [生徒調査]

中学生の英語学習に対する意識と実態

調査概要

調査テーマ

中学生の英語学習の実態と、英語や外国に対する意識

調査方法

学校通しの質問紙による自記式調査

調査時期

2009年1月～2月

調査対象

全国の中学2年生2,967名(有効回答数)
〈抽出方法〉 市区町村の人口規模および人口密度を考慮した有意抽出方法

*大都市(東京23区内)、中都市(地方中規模都市:人口規模が20～30万人程度)、郡部(町村部:人口規模が1～2万人程度)の3地域区分を設定して調査対象校を抽出した。

*調査はすべて公立校(33校)で実施した。

調査項目

〈中学入学以前の英語学習について〉

小学校英語の経験の有無、小学校英語の頻度、小学校英語の開始学年、小学校英語に対する意識、中学入学前の学校外での英語学習の経験の有無、中学入学前の学校外での英語学習の種類、中学入学前の英語学習の内容、中学入学前の英語学習に対する意識

〈中学校での英語学習について〉

授業の理解度、英語の学習でわからないことがあったとき、指導と活動の割合、英語の得意・苦手、苦手と感じるようになった時期、もっともやる気が高かった時期、望ましい授業、英語の成績、つまずきやすいポイント、好きな教科

〈学校外での英語学習について〉

学校外での勉強時間(全体・英語)、学校外での英語学習の種類(習い事・家庭学習)

〈英語学習に対する意識について〉

4技能(読む、聞く、書く、話す)に対する意識、学習動機

〈英語や外国への意識について〉

ふだんの英語との接触、将来身につけたい英語力、外国や英語に関する将来の意識、異文化への関心、外国や英語との関わり

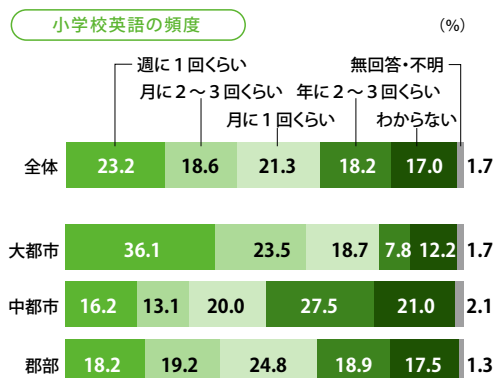
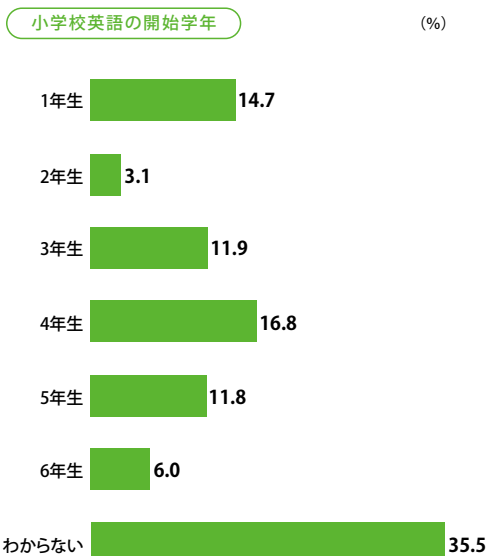
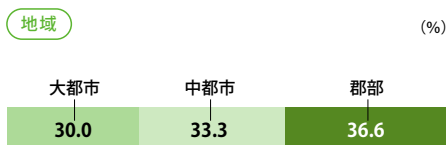
※本調査対象者が受けてきた小学校における英語教育(活動)と、2011年度から必修化される「外国語活動」とは異なるもののため、調査結果をみる際には留意されたい。

CONTENTS

調査概要	2	3. 学校外での英語学習	
基本属性	3	学校外での英語学習	11
小学校における英語教育(活動)をめぐる動き	3	4. 英語学習に対する意識	
1. 中学入学前の英語学習		英語の学習動機	12
小学校英語に対する意識	4	英語の授業について	13
中学入学前の学校外での英語学習	5	5. 英語や外国への意識	
中学入学前の英語学習の内容と英語に対する意識	6	異文化への関心	14
2. 中学校での英語学習		英語についての将来の意識	15
英語学習の理解について	7		
英語の得意・苦手	8		
英語学習でつまずきやすいポイント	9		
英語に対する意識	10		

基本属性

回答者の基本属性



*小学校英語の経験の有無について「あった」と回答した2,713名のみを対象。

*小学校英語の経験の有無について「あった」と回答した2,713名のみを対象。
*「無回答・不明」は省略。

調査対象校のプロフィール

地域

大都市	10校
中都市	11校
郡部	12校

英語の年間授業時数

	105時間	140時間	その他	無回答・不明
1年生	25校	4校	1校	3校
2年生	23校	4校	4校	2校
3年生	21校	7校	2校	3校

*本調査対象校(33校)の英語教員に対し、各校の英語教育の状況などをたずねた結果の一部による。
*2009年7月時点の学習指導要領が定める英語の年間授業時数は、105時間(週3コマ)である。

小学校における英語教育(活動)をめぐる動き

年度	今回の調査対象者の学年	小学校
2002	小2生	現行の「学習指導要領」完全施行
2003	小3生	「総合的な学習の時間」中の国際理解に関する学習の一環として英語活動が始まる
2004	小4生	
2005	小5生	新「学習指導要領」告示 移行措置期間
2006	小6生	
2007	中1生	新「学習指導要領」完全施行 「外国語活動」 小5生・小6生/授業時数年間35時間
2008	中2生	
2009	中3生	
2010		
2011		
2012		
2013		

*小学校での「外国語活動」は、2011年度から必修化される。小学校5・6年生に週1回導入され、「英語ノート」という共通教材が用意されている。本調査の対象者が小学校で経験した英語教育(活動)は、「総合的な学習の時間」の「国際理解教育」の一環としての英語教育(活動)である場合が多い。また、その内容や時数は地域・学校により異なる。

1. 中学入学前の英語学習

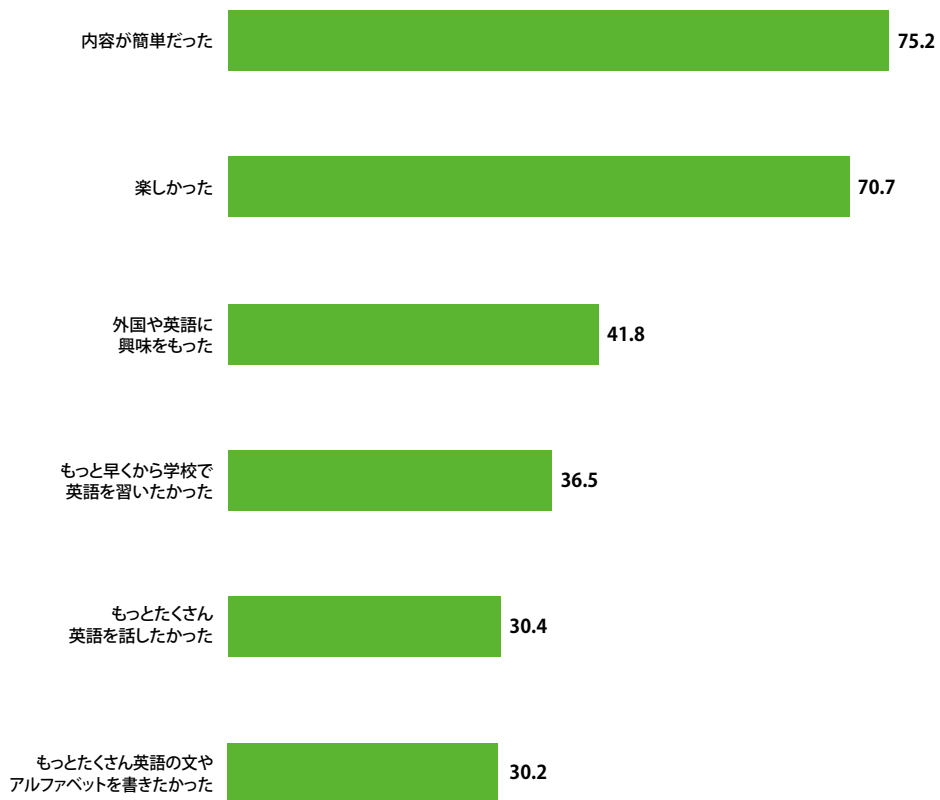
小学校英語に対する意識

7割を超える中学生が、小学校での英語の授業や活動について、「内容が簡単だった」「楽しかった」と感じている。

Q 小学校での英語の授業や活動はどうでしたか。

図1-1 小学校英語に対する意識

(%)



*小学校英語の経験の有無について「あった」と回答した2,713名のみを対象。

*「とてもそう」+「まあそう」の%。

それぞれが経験した、小学校における英語教育(活動)には開始学年、頻度や内容に違いがあるが、小学校での英語の授業や活動についてどのように感じているかをたずねたところ、「内容が簡単だった」が75.2%、「楽しかった」が70.7%と高か

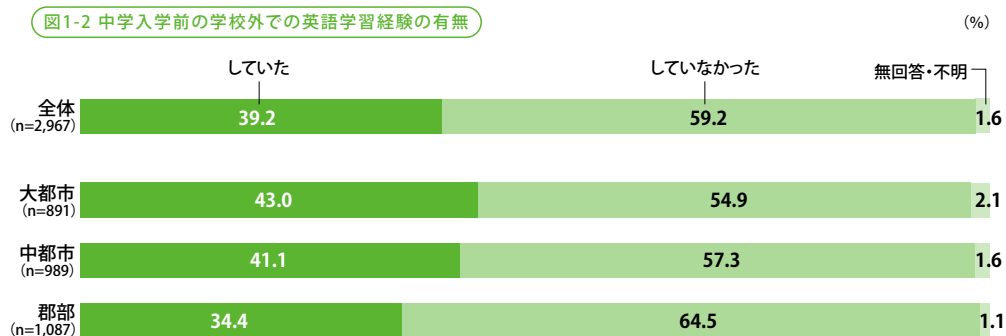
った。続いて、41.8%が「外国や英語に興味をもった」と回答している。一方で、「もっとたくさん英語を話したかった」「もっとたくさん英語の文やアルファベットを書きたかった」は3割程度と低かった。

中学入学前の学校外での英語学習

約4割が、中学入学前に学校の授業以外で英語や英会話の勉強をしていた。
種類については、「学習塾」「英会話教室」がそれぞれ4割以上と高い。

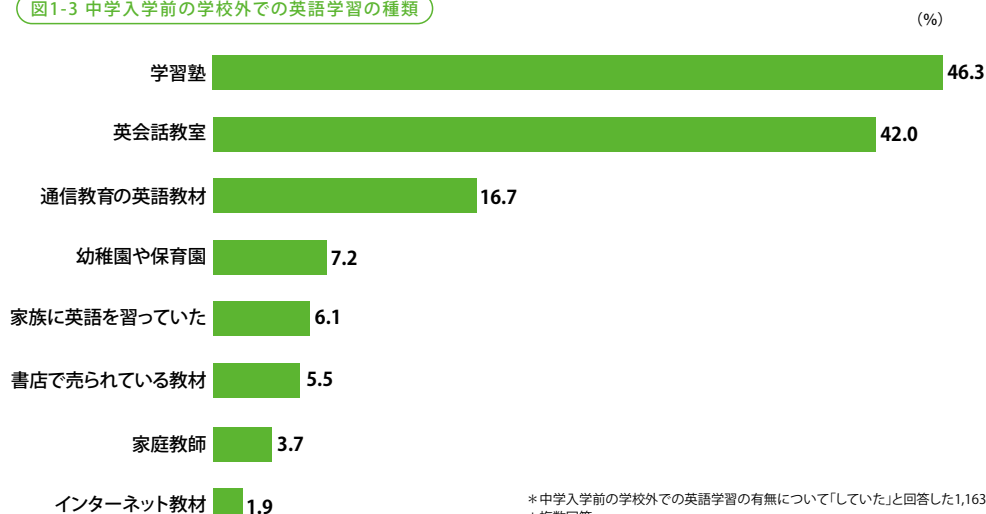
Q あなたは中学校に入学する前(小学生の時やそれ以前)に、学校の授業以外で英語や英会話の勉強をしていましたか。

図1-2 中学入学前の学校外での英語学習経験の有無



Q どのような教室や教材で、英語や英会話の学習を行っていましたか。

図1-3 中学入学前の学校外での英語学習の種類



* 中学入学前の学校外での英語学習の有無について「していた」と回答した1,163名のみを対象。
* 複数回答。
* 「その他」は省略。

小学生のときやそれ以前など、中学入学前に、学校の授業以外で英語や英会話の学習をしていた中学生は39.2%であった。地域によって違いがみられ、大都市、中都市では4割強、郡部では3割強である。さらに、中学入学前に、学校外での英語学習経験が

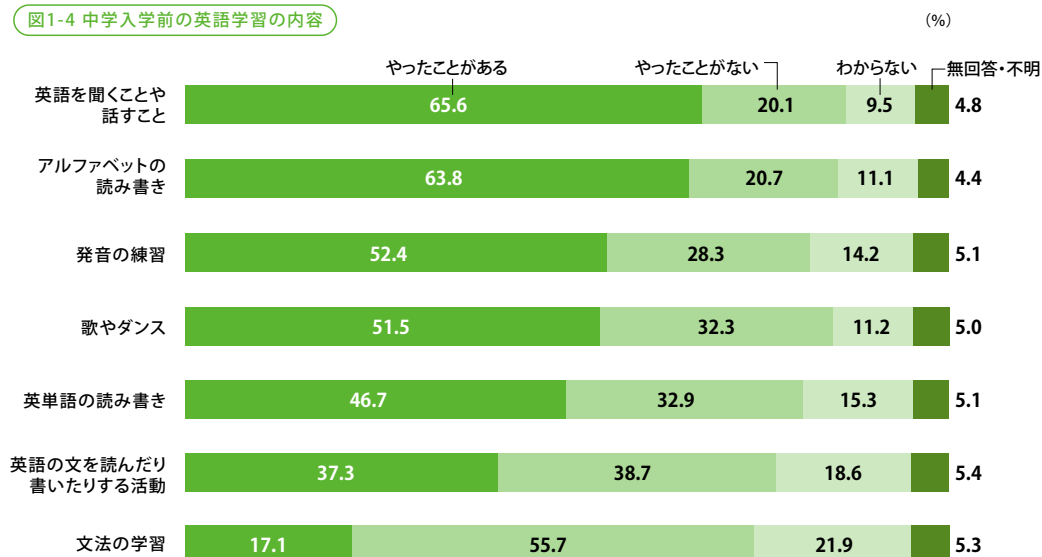
あった生徒に、行っていた英語学習の種類についてたずねたところ、「学習塾」「英会話教室」がそれぞれ4割台と高かった。

中学入学前の英語学習の内容と英語に対する意識

中学入学前に「英語を聞くことや話すこと」「アルファベットの読み書き」をやったことがある中学生はともに6割以上。

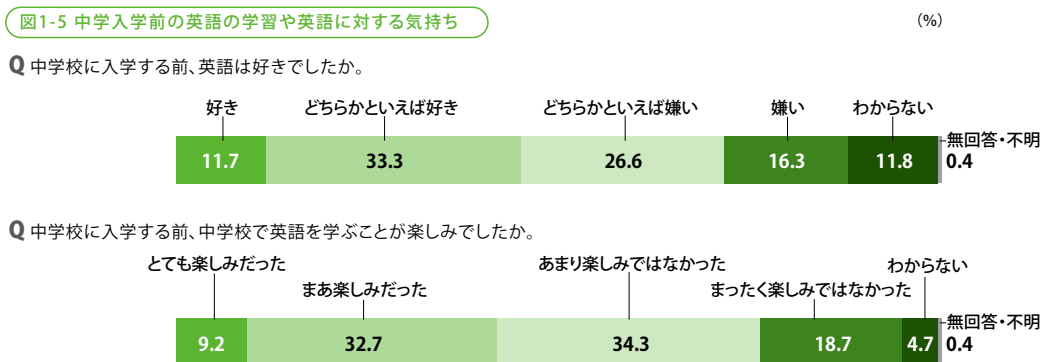
Q 中学校に入学する前に、小学校や習い事での英語の学習で次のようなことはしていましたか。

図1-4 中学入学前の英語学習の内容



Q 中学校に入学する前の、英語の学習や英語に対する気持ちについてお聞きます。

図1-5 中学入学前の英語の学習や英語に対する気持ち



中学入学前の英語学習の内容についてたずねたところ、「英語を聞くことや話すこと」や「アルファベットの読み書き」は6割以上が「やったことがある」と回答している。一方、「文法の学習」は17.1%ともっとも低い。

続いて、中学入学前の英語の学習や英語に対する気持ちについてたずねたところ、「好き(好き+どちらかといえば好き)」、「楽しみだった(とても楽しみだった+まあ楽しみだった)」と回答した生徒はともに4割台だった。

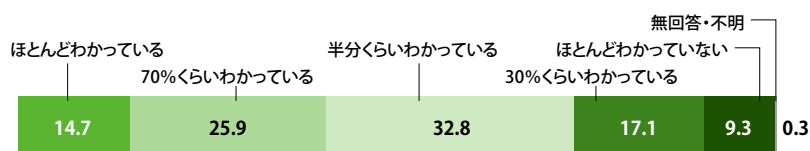
2. 中学校での英語学習

英語学習の理解について

英語の授業について「ほとんどわかっている」「70%くらいわかっている」中学生は合わせて約4割。英語の学習でわからないことがあったとき、約6割が「友だちに聞く」。

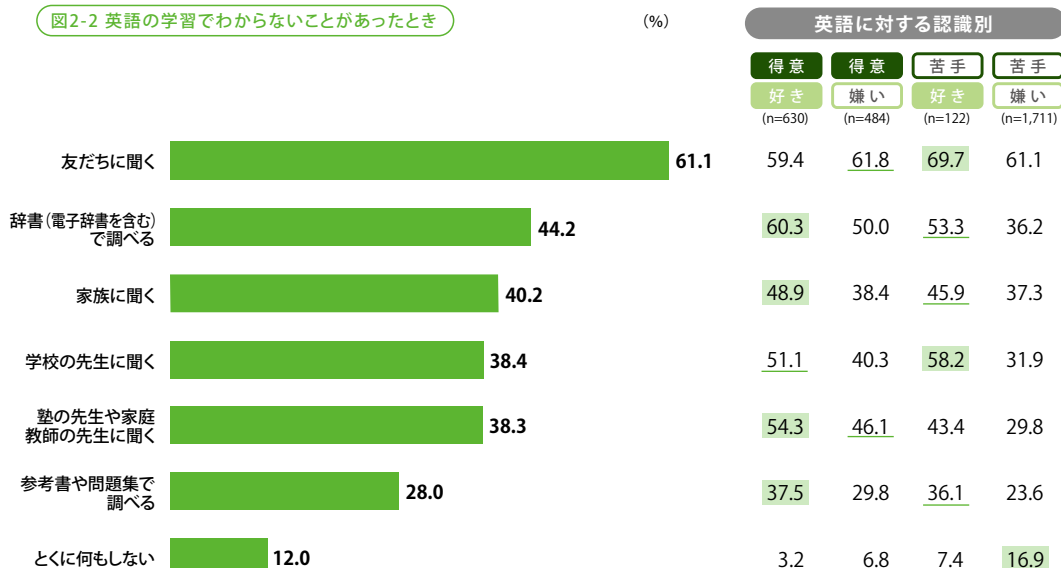
Q あなたは、学校の英語の授業をどれくらい理解していますか。

図2-1 英語の授業の理解度



Q 英語の学習でわからないことがあったときに、あなたはどうしますか。

図2-2 英語の学習でわからないことがあったとき



* 複数回答。
* 「英語に対する認識別」の4タイプについてはp.8 図2-5を参照。
* 「その他」は省略。
* 緑色は認識別の中で最大値。—は2番目の値。

授業の理解度についてたずねたところ、「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」が合わせて4割程度だったのに対し、「30%くらいわかっている」と「ほとんどわかっていない」は合わせて3割弱と、生徒によって理解度にばらつきが

ある。また、英語の学習でわからないことがあったとき、どうするかについてたずねたところ、「友だちに聞く」が6割以上と最も高いが、英語に対する認識によって違いがみられる。

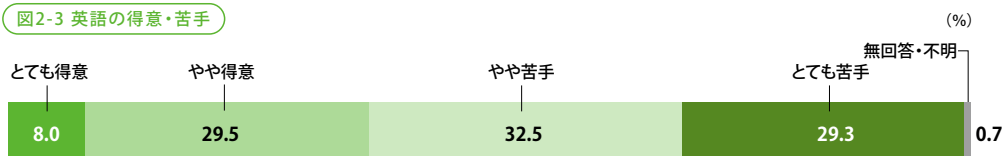
英語の得意・苦手

英語を苦手と感じている中学生は約6割。

そのうち8割弱が、「中1の後半」までに英語を「苦手」と感じている。

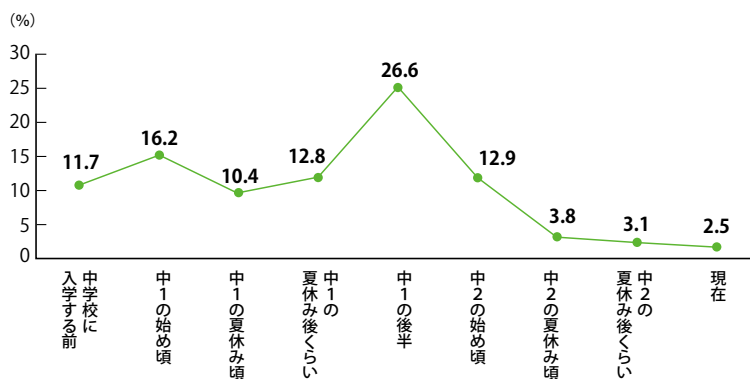
Q あなたは英語が得意ですか、苦手ですか。

図2-3 英語の得意・苦手



Q あなたが、英語を苦手と感じるようになったのはいつ頃からですか。

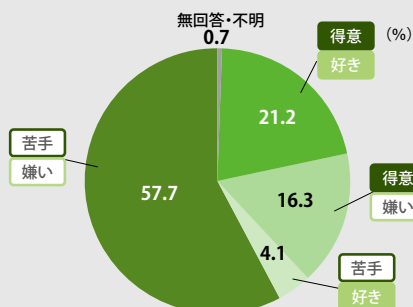
図2-4 英語を苦手と感じるようになった時期



*「現在」は、本調査を実施した1～2月(中2の後半)を示す。
*英語の「得意・苦手」について「やや苦手」「とても苦手」と回答した1,833名のみを対象。
*「無回答・不明」は省略。

図2-5 英語に対する認識

「得意」「苦手」「好き」「嫌い」をもとに、英語に対する認識の4タイプを作成した。詳細は以下の通りである。
「あなたは英語が得意ですか、苦手ですか」という質問(図2-3)で「とても得意」「やや得意」を選択した場合を「得意」とし、「やや苦手」「とても苦手」を選択した場合を「苦手」としている。「あなたは、どの教科が好きですか」という質問(p.10 図2-8)で、「英語」を選択した場合を「好き」、選択しなかった場合を「嫌い」としている。「嫌い」と回答しているわけではないが、ここではわかりやすさを考慮して、「嫌い」と表記している。



英語の得意・苦手についてたずねたところ、英語を「得意(とても+やや)」という回答は約4割であるのに対し、「苦手(とても+やや)」という回答は6割と、「苦手」が「得意」を大きく上回る。さらに、「苦手」と感じるようになった時期は、「中1の後半」がもっ

とも高く、全体では「中1の後半」までに8割弱が苦手と感じている。なお、「得意・苦手」「好き・嫌い」によって英語に対する認識をタイプ分けすると、「苦手・嫌い」の中学生が6割弱を占める。

英語学習でつまずきやすいポイント

「文法が難しい」と感じている中学生が約8割。「英語のテストで思うような点数がとれない」「英語の文を書くのが難しい」と感じている中学生もそれぞれ7割を超える。

Q 英語の学習に関わることについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

図2-6 英語学習でつまずきやすいポイント



*「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

* は認識別の中での最大値。—は2番目の値。

英語の学習の苦手意識やつまずきについてたずねたところ、「文法が難しい」「英語のテストで思うような点数がとれない」「英語の文を書くのが難しい」と感じている割合がいずれも7割以上と高い。英語に対する認識別にみると、「苦手・嫌い」の

生徒は全体的に肯定率が高い。また、「得意・嫌い」の生徒は、「英語に限らず自分からすすんで勉強する習慣がない」「英語に限らず、勉強する気持ちがわからない」など学習全般に関わる項目で若干数値が高い。

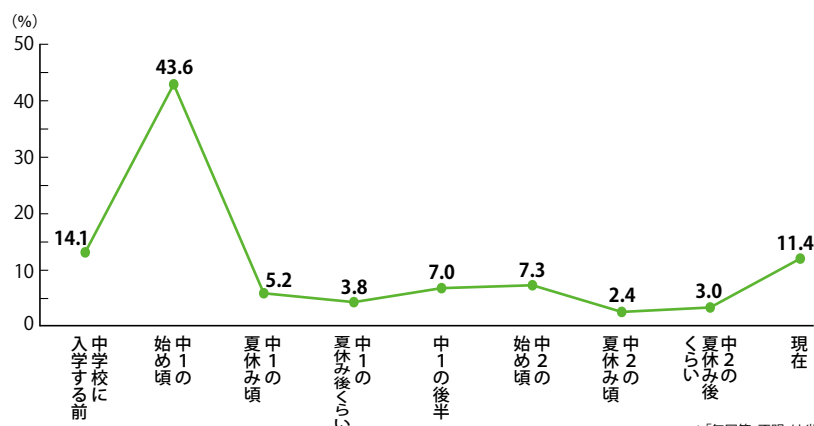
英語に対する意識

もっともやる気が高い時期は「中1の始め頃」という回答が約4割。

好きな教科に「英語」を選ぶ中学生は3割弱。

Q あなたが、もっとも英語学習のやる気が高かった時期はいつですか。

図2-7 もっともやる気が高かった時期

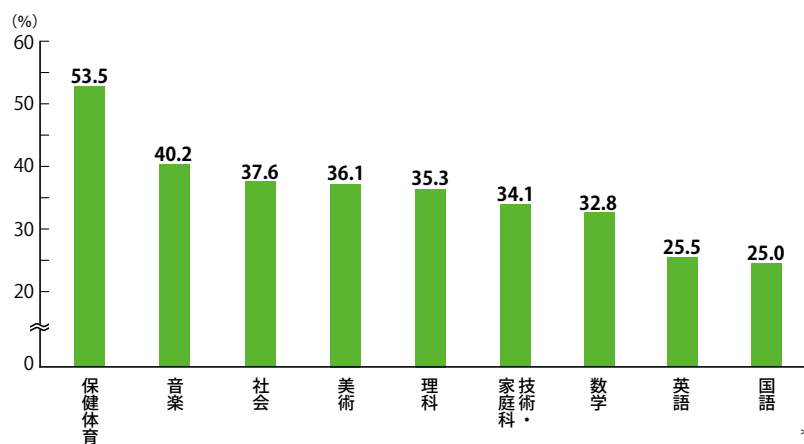


*「無回答・不明」は省略。

*「現在」は、本調査を実施した1～2月(中2の後半)を示す。

Q あなたは、どの教科が好きですか。

図2-8 好きな教科



*複数回答。

*「総合的な学習の時間」「その他」は省略。

英語学習のやる気もっとも高かった時期についてたずねたところ、「中1の始め頃」が43.6%ともっとも高く、その後は大幅な減少がみられるが、「現在」という回答は11.4%と再び上昇に転じている。

続いて、好きな教科について複数回答でたずねたところ、第1位は「保健体育」で半数以上が選択している。一方で、「英語」を「好き」という生徒は全体の4分の1程度で、「国語」に次いで2番目に低い。

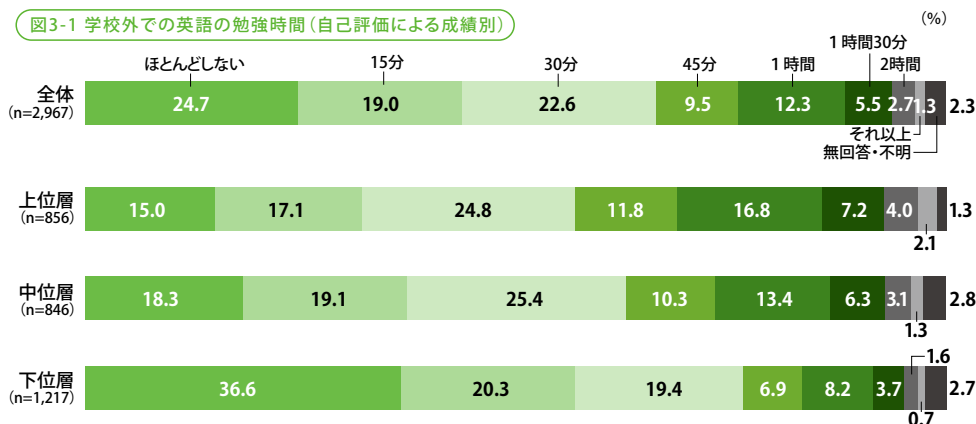
3. 学校外での英語学習

学校外での英語学習

全体の約4分の1が学校外での英語学習は、「ほとんどしない」と回答。成績による違いも大きい。家での英語の勉強は「学校の勉強(宿題、予習・復習など)」が中心。

Q あなたはふだん(月曜日～金曜日)、学校での授業以外に1日だいたい何時間くらい英語の勉強をしていますか。

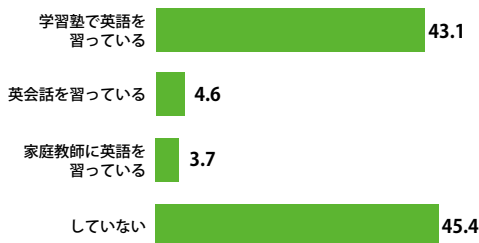
図3-1 学校外での英語の勉強時間(自己評価による成績別)



*「上位層」は現在の英語の成績を「上の方」「真ん中より上」と回答した生徒。
 *「中位層」は現在の英語の成績を「真ん中くらい」と回答した生徒。
 *「下位層」は現在の英語の成績を「下の方」「真ん中より下」と回答した生徒。

Q あなたは現在、学校以外の塾や習い事で、次のような英語の勉強をしていますか。

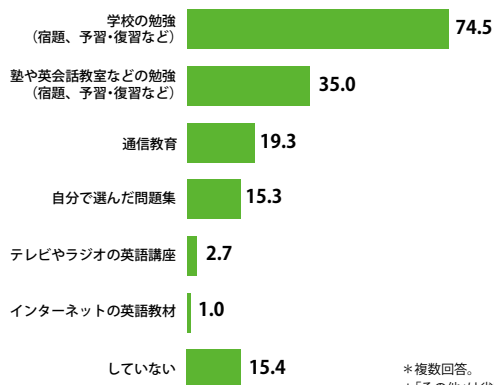
図3-2 学校外での英語学習の種類(習い事)



*複数回答。
 *「その他」は省略。

Q 家ではどんな英語の勉強をしていますか。

図3-3 学校外での英語学習の種類(家庭学習)



*複数回答。
 *「その他」は省略。

学校外での英語の勉強時間についてたずねたところ、全体の約4分の1が「ほとんどしない」と回答している。成績による差も大きく、下位層では「ほとんどしない」が36.6%を占める。続いて、学校外の英語学習については、半数弱が「していな

い」と回答している。家での英語学習については、「学校の勉強(宿題、予習・復習など)」が7割を超えており、もっとも多い。

4. 英語学習に対する意識

英語の学習動機

英語の学習動機は「中学生のうちは勉強しないといけないから」が約8割ともっとも高い。

Q あなたが英語を勉強しているのは、どうしてですか。

図4-1 英語の学習動機



*「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

* は認識別の中での最大値。―は2番目の値。

中学生はどのような動機から英語を勉強しているのだろうか。約8割の生徒が「中学生のうちは勉強しないといけないから」と回答しており、「英語のテストでいい点を取りたいから」「できるだけ良い高校や大学に入りたいから」と続く。英語

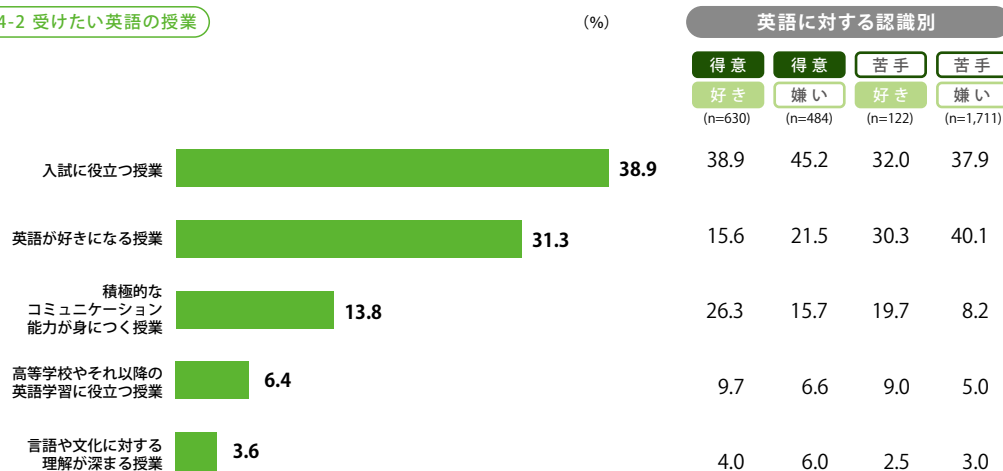
に対する認識別にみると、「英語が好きだから」「英語の勉強がおもしろいから」の項目でタイプによる違いが大きく、「得意・好き」「苦手・好き」ともに数値が高い。「苦手・嫌い」の生徒は、上位3項目以外で肯定する比率が半数以下と低い。

英語の授業について

受けてほしい英語の授業として中学生が望むのは「入試に役立つ授業」が第1位。好きな英語の活動では、「英語で文章や本を読むこと」が3割台とやや低め。

Q あなたは、どんな英語の授業を受けたいですか。

図4-2 受けたい英語の授業



*いずれか1つを選択。
*「その他」「無回答・不明」は省略。

Q あなたは次のようなことは好きですか。

図4-3 好きな英語の活動



*「とても好き」+「まあ好き」の%。

どのような授業を受けたいかをたずねたところ、「入試に役立つ授業」が38.9%と最も高い。英語に対する認識別みると、受けたい授業には違いがみられ、「苦手・嫌い」の生徒は「英語が好きになる授業」という回答が多い。

続いて、4技能(読む、聞く、書く、話す)の好き嫌いをそれぞれたずねたところ、いずれも半数以下ではあるが、「英語を聞くこと」「英語で話すこと」「英語で書くこと」は4割台である。一方で、「英語で文章や本を読むこと」は3割台とやや低い。

5. 英語や外国への意識

異文化への関心

「外国に行きたい」と思っている中学生は6割強。
英語が「得意・好き」「苦手・好き」な中学生は異文化への関心が高い。

Q 次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

図5-1 異文化への関心



*「とてもそう」+「まあそう」の%。

* は認識別の中での最大値。...は2番目の値。

外国や英語への興味・関心についてたずねたところ、「外国に行きたい」という回答が64.7%と高く、次いで「外国の人に道を聞かれたら答えるようにしたい」が59.6%であった。英語に対する認識別の数値をみると、全体的に「得意・好き」の生徒

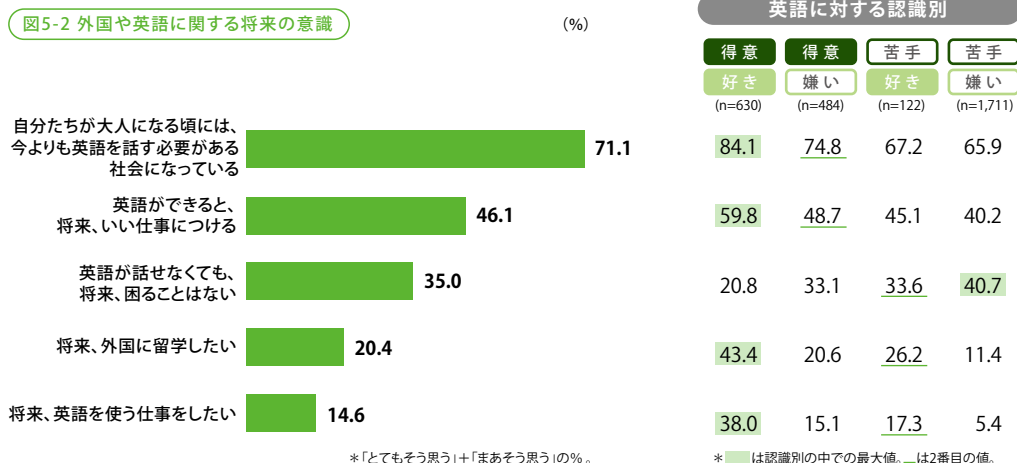
は外国や英語への興味・関心が高い。「英語を使って外国の人と話してみたい」は他のタイプとの数値の差がとくに大きい。また、「苦手・好き」の生徒は、「得意・嫌い」の生徒よりも全体的に外国や英語に対する興味・関心が高い。

英語についての将来の意識

7割が「自分たちが大人になる頃には、今よりも英語を話す必要がある社会になっている」を肯定。将来身につけたい英語力は、「英語でよい成績がとれるくらいの英語力」が第1位。

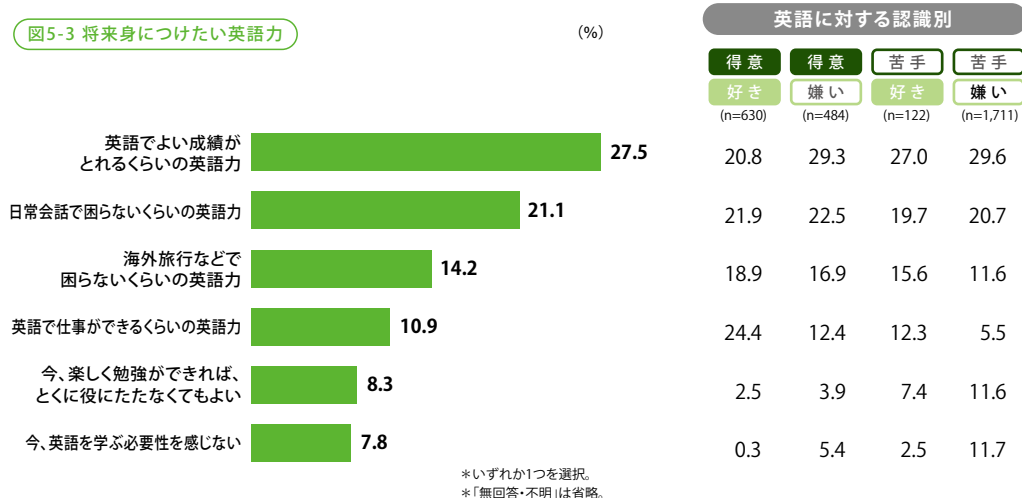
Q あなたは次のようなことについてどう思いますか。

図5-2 外国や英語に関する将来の意識



Q あなたは将来、どのくらいの英語力を身につけたいですか。

図5-3 将来身につけたい英語力



外国や英語に関する将来の意識についてたずねたところ、「自分たちが大人になる頃には、今よりも英語を話す必要がある社会になっている」という回答が71.1%と最も高かった。しかし、「将来、英語を使う仕事をしたい」は14.6%の生徒しか肯定していない。また、将

来身につけたい英語力については、「英語でよい成績がとれるくらいの英語力」が27.5%と最も高い。しかし、英語に対する認識別にみると、「得意・好き」の生徒は24.4%が「英語で仕事ができるくらいの英語力」を選択している。

第1回中学校英語に関する基本調査(生徒調査)

調査企画・分析メンバー

吉田 研作	上智大学教授	沓澤 糸	Benesse 教育研究開発センター主任研究員
根岸 雅史	東京外国語大学教授	木村 治生	Benesse 教育研究開発センター主任研究員
酒井 英樹	信州大学准教授	佐藤 暢子	Benesse 教育研究開発センター研究員
重松 靖	国分寺市立第三中学校校長	福本 優美子	Benesse 教育研究開発センター研究員
鈴木 利彦	早稲田大学専任講師	初海 真理子	Benesse 教育研究開発センター研究員
工藤 洋路	東京外国語大学専任講師		

※所属・肩書きは刊行時のものです。

『第1回中学校英語に関する基本調査報告書』2009年12月 刊行予定

生徒調査(本調査)と先に実施した教員調査の詳細な分析をまとめた『第1回中学校英語に関する基本調査報告書』(150頁程度、頒価1,000円)を、2009年12月に刊行します。報告書をご希望の方は、Benesse教育研究開発センターのWEBサイトの「調査・研究データ→報告書の申し込み」、もしくはお電話で直接お申し込みください。発刊次第、お送りいたします。なお、この報告書は、書店ではお求めになれません。

Benesse教育研究開発センターのWEBサイトのご案内

Benesse教育研究開発センターで実施している各種調査結果は、以下のWEBサイトにてご覧いただけます。

Benesse教育研究開発センター



<http://benesse.jp/berd/>

お問い合わせやご注文はこちらまでどうぞ

〒163-1422 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー22階

(株)ベネッセコーポレーション Benesse教育研究開発センター

「第1回中学校英語に関する基本調査」係

TEL : 03-5371-1196 (10:00~17:00/土日、祝日を除く)